

『葬儀の作法』

<前半：座談会>

【亡くなられたとの連絡があってから、初七日が終わるまでの流れについて】

	衣体	勤行	
枕経	布袍(黒衣)・輪袈裟(墨袈裟)	阿弥陀経・短念仏	勤行は仏壇の前にて
(法名を持参)			
悔やみの御経(ご門徒以外)	黒衣・墨袈裟	阿弥陀経・短念仏	(香料を持参)
通夜	黒衣・五条(墨袈裟)	正信偈(阿弥陀経)	(香料を持参)
お剃刀・出棺勤行	色衣・七条・切袴	帰三宝偈(十四行偈)	出棺勤行は仏壇の前にて
葬儀式	色衣・七条・切袴・草鞋	正信偈	葬儀壇を向き曲縁にて
納骨・寺参り	黒衣・五条	阿弥陀経・短念仏	
永代経	黒衣(色衣)・五条	偈文(四十八願)	
初七日	黒衣・五条	観経(阿弥陀経)・掛和讃・御文章・法話	

● 通夜勤行

- ① 導師入場 葬場に入るとき一礼する。葬儀壇まで進み、軽く一礼し、仏壇前に進み、焼香・着席。
- ② 含掌…礼拝
- ③ 正信偈(行偈又は草偈) (行讃又は草讃)・ご文章・法話
- ④ 含掌…礼拝
- ⑤ 導師退出 起立し軽く一礼。葬儀壇まで進み、焼香。退出。葬場を出るとき一礼する。

● 出棺勤行

仏壇の前か葬儀壇前(荘厳壇、棺前)で葬場勤行に先立っての勤行。棺前勤行とは言わない。

- ① (遺族・親族・来賓入場・着席)
- ② 導師・衆僧(法中)出仕・着席(座) 葬場に入るとき一礼する。
- ③ 仏壇にて焼香、含掌礼拝。(導師の動作に合わせて一同含掌礼拝)
- ④ 「おかみそり」導師は葬儀壇前に進む。 流転三界中 恩愛不能断 棄恩入無為 眞実報恩者 南無帰依仏、南無帰依法、南無帰依僧まで言う。終わりに含掌礼拝。仏壇前に戻る。

<生前中に「帰敬式(おかみそり)」を受け、法名を拝受している場合は除く>

- ⑤ 十四行偈 短念仏 回向(この後阿弥陀経はあげない)
- ⑥ 導師・衆僧(法中)退出

葬場を出るとき一礼する。

● 葬場勤行

- ① 路念仏
- ② 出勤作相 衆僧(法中)出仕
葬場に入るとき、一礼する。
- ③ 引き続いて導師入堂。導師に合わせて衆僧(法中)起立している。

- ④ 砂張り (りん) 二打
- ⑤ 導師焼香 導師に合わせて含掌・礼拝。
- (⑥ 表白)
- (⑦ 弔辞) (導師に合わせて衆僧 (法中) 着席)
- (③ 導師に合わせて衆僧 (法中) 着席)

- ⑨ 砂張り (りん) 二打
- ⑩ 略伽陀 (又は三奉請)

① 正信偈・念仏 和讃は男女とも『本願力に…』でも良い。

衆僧 (法中) 焼香→喪主焼香→導師着席。導師に合わせて衆僧 (法中) 着席。引き続いて喪主→遺族→親族→来賓等焼香→参列者焼香

- ⑫ 念仏 掛和讃 ・回向
- ⑬ 弔電 <司会者席にて行う>
- ⑭ 一同含掌 ……<導師の動作に合わせて>……礼拝。
- ⑮ 退出作相 ・導師・衆僧 (法中) 退出
葬場を出るとき、出入り口で一礼する。
- ⑯ 喪主・葬儀委員長挨拶

■ 焼香について

- ① 焼香台の 1、2 歩手前で一礼
- ② 香炉の直前に進む。中啓 (檜扇) を懐に入れる
- ③ 香を 3 回または 1 回つまみ、香炉に入れる
- ④ 含掌 (念仏を称える)、礼拝。中啓を懐から取り出す。
- ⑤ 1, 2 歩 下がって一礼

※葬儀中、諷経僧の焼香で導師の前に進んで行う場合、導師に軽く一礼して (導師は読経中ですので答礼はしない。)、仏前に進んで①～⑤の順で焼香をする。焼香後は自分の席に向かうとき、導師に深く一礼する。

● 納骨について

葬式終了後 (当日又は翌日) お手次の寺院に納骨する。また適当な時期に各家の墓地や本山に納骨する。特に何日までに納骨しなければいけないという決まりはない。

尚、誠照寺派の門徒は、遺骨の一部を宗祖親鸞聖人ゆかりの鯖江本山に納骨するよう (本山納骨) 勧める。

● その他

ご法主の葬式出仕について

焼香願いも葬式招待とみなす。随行は一人でも良い。なるべく正信偈の調声をしてもらう。僧綱板を付けてもらう。